

三重看護学誌投稿規定

三重看護学誌編集委員会

1. 本誌の名称および目的

本誌の名称を三重看護学誌（Mie Nursing Journal: MNJ）とする。MNJ は、看護学に関わる研究者、教育者、実践家等が、日々の研究・教育・実践活動上の課題や対策等について科学的根拠をもって広く一般に周知するとともに、独自性の強い研究成果を世に問うことを目的とする。そのため、幅広い看護学分野における論文を掲載し、原則として年 1 回発行する。

2. 投稿資格

原則として、筆頭著者または共著者に、以下の項目に該当する者が含まれているものとする（筆頭著者が学部生の場合は受け付けない）。ただし、委員会で承認された場合には、この限りではない。

- 1) 三重大学大学院医学系研究科教職員
- 2) 三重大学医学部附属病院の職員
- 3) 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻在籍者または修了者等

3. 投稿原稿の種類

原稿は 5 種類であり、それらの基準は以下のとおりとする。枚数は、図表を除くものとする。

1) 総説（9 頁以内）

ある主題に関連した研究の総括であり、多面的な知見の集約と文献等のレビューにより、当該テーマについての学問的状況の概説と考察を行ったもの

2) 原著論文（12 頁以内）

独創的な内容あるいは新しい事実に基づき得られた知見と実践への示唆について、論理的かつ学術的に述べられている研究論文

3) 研究報告（9 頁以内）

独創的な内容あるいは新しい事実を含み、得られた知見が論理的に述べられている研究論文

4) 資料（9 頁以内）

実践または教育の発展に向けて、論理的に科学的根拠を示した研究論文

5) その他（3 頁以内）

委員会報告、MNJ 委員会からの依頼原稿（巻頭言など）

4. 倫理的配慮

研究の着手、計画、実施、成果公開のすべての過程において倫理的な配慮がなされた論文を投稿する。ヒトおよび動物が対象である研究は、研究倫理審査委員会等の承認を経て、その旨を論文中に明記する。

5. 利益相反

全ての著者は、発表内容に関係する企業・組織・団体との利益相反状態について、「謝辞」欄の後に記述する。利益相反に相当しない場合は、「本研究における利益相反は存在しない」と明記する。

6. 執筆要領

原稿の作成は、別に定める執筆要領に従うものとする。

7. 投稿手続き

- 1) 投稿原稿を 3 部（正本 1 部、副本 2 部）印刷して提出する。ただし、副本は、投稿者氏名・所属、謝辞等の投稿者が特定される表記を削除する。
- 2) 投稿原稿を保存した電子媒体（USB メモリが望ましい）も提出する。電子媒体には筆頭著者名を記入する。
- 3) 本学ウェブサイトよりダウンロードした「投稿申込書」および「投稿論文チェックリスト」に必要事項を記入し、添付する。
- 4) 「三重看護学誌原稿」と表に朱書きした封筒に上記 1) ～ 3) を入れ、受付期間内に下記に書留郵送または持参する。受付期間は、当該年度の初めに MNJ 委員会が決定し、本学ウェブサイトに掲載する。

〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻内 MNJ 委員会会

8. 原稿の受付および採否

- 1) 上記 7 の手続きを経た原稿の到着日を受付日とする。
- 2) 原稿の採否は査読を経て、委員会が決定する。MNJ 委員会の依頼した者が査読を担う。
- 3) 査読により論文内容の追加・修正を求められた投稿者は、指定期間内に再提出する。期間内に再提出がない場合、投稿を取り下げたものとして扱われる。
- 4) 掲載論文の種類については、著者および査読者の意見を尊重し、MNJ 委員会が最終的に決定する。

9. 校正

論文受付後の著者校正は原則 1 回とし、校正の際の加筆を認めない。

10. 著作権

掲載論文に関する著作権は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻に帰属する。掲載論文は電子化され、インターネット上に公開される。

11. 著者が負担すべき費用

- 1) 掲載料 原則として無料とする。
- 2) 別刷料 10 部を超えて別刷を希望する場合は、著者負担とする。

附 則

この規定の改訂は、令和 2 年 4 月 1 日より施行する。

三重看護学誌執筆要領

三重看護学誌編集委員会

1. 投稿する原稿は、未発表のものあるいは他の学術雑誌に投稿中でないものとし、原則として和文または英文とする。和文論文にも英文の題名をつける。

2. 原稿は、次の要領に従い、綴りの順序は以下の番号の順とする。

1) 表紙

表題（和文および英文）、著者名（和名の場合は英語併記）、所属（日本語表記）を記述する。また、本文枚数（文献を含む）、図・表および写真等の枚数をそれぞれ明記する。

2) 要旨

和文（400 字程度）および英文（250words）とする。要旨の後には、5 単語以内のキーワード（Key words）をつける。但し、「資料」および「その他」の原稿には不要とする。

3) 本文

(1) 【原稿様式】原稿は、縦置き、横組 1 段とし、片面印刷とする。用紙は、A4 判（白無地のコピー用紙）とし、余白は左右 25mm、上 30mm 下 20mm し、左辺に行番号、下辺中央にページ番号を付すこと。

(2) 【原稿書式】原稿の作成には、原則としてワードプロセッサを用い、本文には黒インクを使用して、1 ページは 40 文字 40 行程度とする。本文で用いる書体は、原則として、和文に明朝体、英文に Times 体を用いて、文字サイズを 12 ポイントにする。見出しなどは必要に応じてゴシック体に変更し文字サイズを大きくしてもよい。

(3) 【論文構成】論文の基本構成は、原則として、序論・研究方法・結果・考察・結論・謝辞・文献とする。

(4) 【図表様式】図、表、写真は適切な位置に配置する。図は、原則としてグレイ階調で作成する。図番号をアラビア数字で連番に振り、図のタイトルとキャプションを付けること。表も同様に、連番の表番号を振り、表のタイトルをつけ、必要に応じて表注を付すこと。

(5) 【略語】略語は、原則として、初出の際に正式名を記述し、括弧内に以降で使用する略語を記入し、略語の意味が理解できるようにする。

（例）日常生活動作（Activities of Daily Living、以降 ADL と記す）

(6) 【文献記載】文献の記載は、ハーバード方式（本文中に著者名と発行年次を括弧書き）とし、共著者は 3 名までを表記する。記載方法は、下記の例示による。

【雑誌掲載論文】

<和文>

著者名（年次）. 論文の表題、掲載雑誌名、号もしくは巻（号）、初頁 - 終頁.

《記載例》

畑下博世, 鈴木ひとみ, Saint Arnault Denise 他 (2015). ストレス対処に関する日本人女性の文化的特性について, 日本地域看護学会誌, 18 (2-3), 13-22.

<英文>

Author, A. A., Author, B. B., Author, C. C., et al. (year). Title of article, Journal name, volume (number), pp-pp.

《記載例》

Aiken, L.H., Sloane, D.M., Bruyneel, L. et al. (2013). Nurses' reports of working conditions and hospital quality of care in 12 countries in Europe, International Journal of Nursing Studies, 50(2), 143-153.

（出版前のオンライン公開版の場合は DOI を付ける）

Author, A. A., Author, B. B., Author C. C., et al. (year). Title of article, Journal name, Advance online publication. doi.

《記載例》

Stefana, A., Padovani, E.M., Biban, P. et al. (2018). Fathers' experiences with their preterm babies admitted to neonatal intensive care unit: A multi-method study, Journal of Advanced Nursing, Advance online publication. doi:10.1111/jan.13527.

【単行本】

<和書>

著者名（発行年次）. 書名（版数）, 出版社名, 発行地.

著者名（発行年次）. 論文の表題, 編者名, 書名（版数）, ページ数, 出版社名, 発行地.

《記載例》

中山和彦, 小森照久 (2000). こころの臨床 a・la・carte, 星和書店, 東京.

季節子, 澤田貴志 (2015). 在日外国人の医療, 日本国際保健医療学会編, 国際保健医療学 (第3版), pp.218-220, 杏林書院, 東京.

<洋書>

Author, A. A., Author, B. B. (year). Title of work, Location: Publisher.

Author, A. A., & Author, B. B. (year). Title of chapter or entry. In A. Editor, B. Editor, & C. Editor (Eds.), Title of Book (pp. xxx-xxx). Location: Publisher.

《記載例》

Meleis, A.I. (2017). Theoretical Nursing Development & Progress (6th ed.), China: Wolters Kluwer.

Fulton, S., Krainovich-Miller, B. (2014). Gathering and apprising the literature, In LoBiondo-Wood, G., Haber, J. (Eds.), Nursing Research: Method and Critical Appraisal for Evidence Based Practice 8th ed., (pp.49-74). China: Elsevier.

【翻訳本】

原著者名 (発行年次) / 訳者名 (翻訳書の発行年次). 翻訳書名 (版数), 出版社名, 発行地.

《記載例》

ポーリット D.F., ベック C.T. (2004) / 近藤潤子 (2010): 看護研究 原理と方法 (第2版), 医学書院, 東京.

【オンライン文献】

著者名 (発行年次). タイトル, URL, 閲覧日.

《記載例》

日本看護協会 (2015). 平成26年度 保健師の活動基盤に関する基礎調査 報告書 (平成26年度 厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業)

URL: <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2015/26-katsudokiban.pdf>

(閲覧日: 2018年2月28日).

附 則

この規定の改訂は, 令和2年4月1日より施行する.

編集後記

昨年に引き続き、今年度も編集後記を記す機会を頂戴しました。今回は、最近ふと考えた2点について触れたいと思います。

「不自由さから生み出される創造性」

外出制限、3密回避など、制限や制約を余儀なくされる日常が常態化している今日この頃です。これらは確かに窮屈であり疎ましくもありますが、常態化した状況に活路を見出そうとする工夫や発想の転換で、生活に新たな彩や挑戦することへの可能性を見出した人もいます。それは強い寒さにさらされると甘みを増す野菜や、限られた空間でより豊かな機能を発揮するためにしわやひだを増やす脳や腸管粘膜と共通する特性があると感じます。

「変革のためには多面的な観点の指摘と、それに対応する密で誠実な呼応が必要」

今回、当委員会はMNJの冊子体での発行を縮小し、情報の発信方法をリポジトリに移行させることとしました。この発想のきっかけは時間や場所を問わずに情報に接触できる自由度の向上、紙資源の節約、媒体への接触機会を減らすことによる感染拡大抑制への貢献というものでした。しかし発信方法の移行に関する話し合いでは、オンライン環境の安全性に関する疑問の提示、紙媒体による情報の浸透の優位性の指摘、発行媒体の存在による著者の意欲の向上効果の例示など、実に様々な意見が述べられました。そして提示された課題を解決する策を丁寧に検討しました。指摘を受けて調べ、対策を考える過程において新たな情報や知識を知るきっかけになり、また留意する意識を高めることができ、その結果、予定していた冊子発行の縮小化、リポジトリでの情報発信一元化への一歩前進に至りました。コロナ禍において様々なことが変化することを余儀なくされ、ニューノーマルという言葉が聞かれるようになり、変革することを急いでいたかもしれません。しかし、多面的な意見によって慎重な準備を重ねたことを通して、丁寧に変革をしていくことの重要性を認識しました。

この2点をなぜ思いついたのだろうか・・・いずれも相当のエネルギーが注ぎ込まれているエピソードです。そしてこれらを思い起こすきっかけは、本雑誌に投稿して下さいました著者や査読の先生方の研究にかけるエネルギーを編集担当として至近距離で感じたからだだったのかもしれないと思います。変化を目指して注がれるエネルギーは、情緒面でも、また学術面でも、人の思考を揺さぶるきっかけになります。

エネルギーと熱意をかけて提示されました研究論文をこれからはリポジトリを通して、より多くの方々にご覧いただき、ご活用いただくことを願っております。

22年間と長年に渡り三重看護学誌を発刊して参りましたが、世の中の流れのペーパーレス化にならない、三重看護学誌も冊子での発刊をとりやめることに致しました。長年にわたり、ご愛読いただきありがとうございます。今後は、三重大学学術機関リポジトリをご利用頂きますようよろしくお願い致します。なお、三重大学学術機関リポジトリのURLは次のとおりです。

<https://mie-u.repo.nii.ac.jp>

よろしくお願い致します。

2021年3月

三重看護学誌委員会委員長

竹内 佐智恵

三重看護学誌編集委員会委員

竹内佐智恵, 井村 香積, 平松万由子, 服部 由佳, 高橋 恭子

三 重 看 護 学 誌

第 23 卷

印 刷	2021 年 3 月 31 日
発 行	2021 年 3 月 31 日
発 行 者	三重大学大学院医学系研究科看護学専攻 〒 514-8507 津市江戸橋 2 丁目 174 番地 TEL (059) 232-1111 (代) FAX (059) 232-8065
印 刷 所	伊 藤 印 刷 株 式 会 社 〒 514-0027 津市大門 32 - 13 TEL (059) 226-2545 (代) FAX (059) 223-2862
